

TTA レポート (NO.107)

2016年度を迎え、総会も終え、新体制で全員一丸となって、2022年の栃木国体を目指し、一步一步目標に向い邁進していきたいと思ひます。

1、2016年度の事業方針(2015年度実績)

.....2015年度の実績と反省.....

- 1、TTAの収支面の更なる透明性、健全化及び情報共有の推進。スピードのある決断と実践
- 2、参加し易い土壌作りのため、大会実施方法の日々見直しと改善 ダブルスの参加者増を
- 3、「第10回とちぎオープン」の更なる定着化。高妻先生・笠原先生によるメンタルヘルスのジュニア教育の徹底
- 4、ジュニア育成強化基金40万円を計上し、更なる推進。
- 5、JTA後援の楽天キッズテニス支援プログラム「テニスPLAY+STAY」のレッド・オレンジ・グリーン ボールによる推進。各地区協会との連携による実施
- 6、2015年度事業推進と予算に感謝。

.....2016年度の事業方針.....

- 1、TTAの収支面の更なる透明性、健全化及び情報共有の推進。スピードのある決断と実践
- 2、参加し易い土壌作りのため、大会実施方法の日々見直しと改善 ダブルスの参加者増を
- 3、TTA組織体制の充実と共に、2016年度予算の必達、一丸となって更なる努力を。
- 4、障害者スポーツの積極的支援(ブラインドテニスダブルス大会、聴覚障害者スポーツテニス大会(2016/6/25~26))
- 5、2022年栃木国体目指し、次代を担うジュニアの強化の実現、国体強化費補助金の有効活用  
SCUの養成計画の策定、テニス国体会場地の整備、平成28年度強化事業等に係る各種調査の推進
- 6、テニスP&Sの地区協会中心の推進 JTAの補助活用、TTAのバックアップ
- 7、栃木県クラブ対抗戦の推進(KTA4県対抗交流戦)

2、5/3(火) TTA総会 (15:00~ホテルニューイタヤ)

2.1 2022年栃木国体

- 1)SCUの養成計画の策定。鈴木審判委員長にて、2020年までの対象者、人数、費用等を具体化。
- 2)主な内容 ①競技団体スキルアップ事業実施 ②国体対策ジュニア育成強化事業実施  
③競技力ランクアップ支援事業実施 ④国体対策指導者養成事業実施 ⑤アドバイザーコーチ事業実施  
⑥スポーツ医・科学サポート事業実施 をジュニア中心に具体的実施。

2.2 テニスP&S

過年度の実績について

◆平成25年度(計1回)

I 鹿沼市 平成26年3月22日(土)am フォレストアリーナ キッズ 60人

◆平成26年度(計4回) (Iのみテニスの日の事業)

I 宇都宮市 平成26年9月23日(火・祝)終日 屋板運動場 キッズ・親子79人

II 足利市 平成26年10月11日(土)am 総合運動場 キッズ 74人

III 那須塩原市 平成27年2月11日(土)am 黒磯体育館 キッズ 18人

IV 栃木市 平成27年3月28日(土)am 総合運動公園体育館 キッズ 29人 (全計260人)

◆平成27年度(計4回実施)---宇都宮市、佐野市、小山市、那須塩原市

○平成28年度(計4回予定)---JTAでも市区町村に展開に予算措置。

2.3 国体会場地の日体協-JTAの視察 2016. 12. 20に第一回

テニスコートのJTA基準との合致、ナイター設備の規模、バリアフリーの具体化、更衣室・トイレ・駐車場・観客席の設置。

3、3/24 JTA評議員会 評議員会13-15後、味の素NTC見学15:00~16:20 懇親会16:30~17:30、質疑応答 井村より

①2020年にオリンピックとパラリンピックですが、自分がこう障害者になり、バリアフリーがきめ細かく配慮されているか痛切に感じます。栃木県でも積極的に聴覚傷害者やブラインドテニスの大会の審判をするんですが、障害者の立場に立ち多々心配りが要と思ひます。

②2点目ですが、「テニスP&Sで、栃木県の傘下には12地区協会があり、発掘・普及をより定着化するには時間がかかります。一方、2022年には栃木国体もあり、次代を担うジュニアの育成・強化のも多くの金がかかります。JTAからのP&Sの補助は大変助かるので今後とも是非継続していただきたい。JTAも全国で大変だが、少子化の時代に宜しく願ひします。

以上